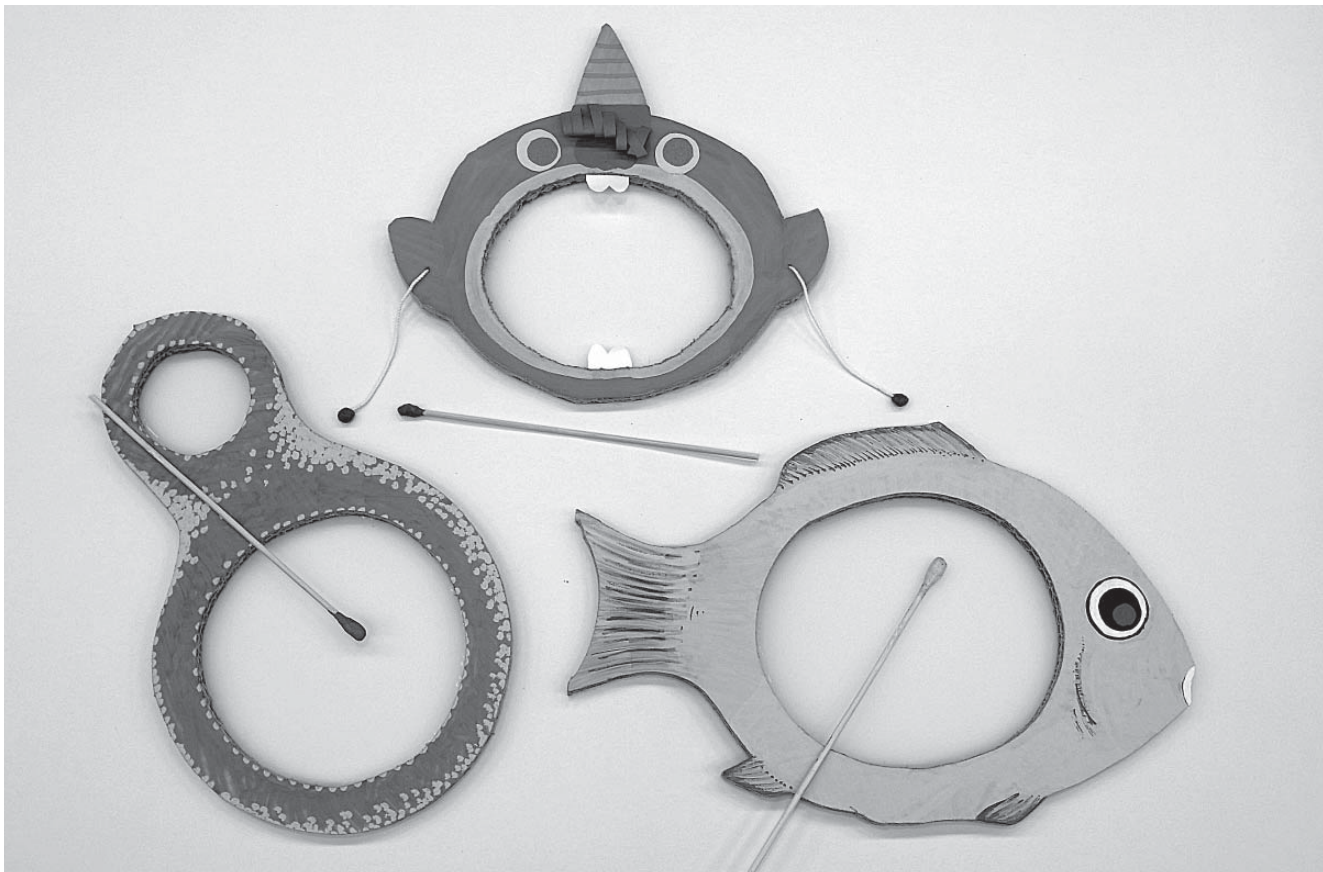


音と造形 「ポンドだいこ」

私たちの身の回りは、いつも音であふれています。耳をすますと鳥、風、車、人の行きかう足音、自然音、人工音、心地よい音、不快な音など、さまざまな音が入り混じって聞こえてきます。「音と造形」は、そんな〈音〉に気づき、〈音〉はどのようにして生まれるのか、その構造を考えながら、造形活動をとおして〈音〉を楽しみました。形と音の関係をわかりやすく体験できる「ポンドだいこ」を紹介します。



〈音〉と出会うプログラム

太鼓のなかまの打楽器の多くは、動物などの皮が張られています。大人でも作ることは容易ではありません。「ポンドだいこ」では、身近にある段ボールと、建築図面などに使われている少し厚めのトレーシングペーパーを使用します。トレーシングペーパーで作る幕面が、太鼓のたたくところになります。幕面の形が、池 (pond) のように見えるので「ポンドだいこ」と名付けました。

張った皮をたたいて音を出す太鼓のなかま——「たたかれる」ものは、ドラム、和太鼓、コンガなど、世界各地に

あり、形や大きさもさまざまです。「たたく」ものも、手(指先や手のひらなど)、棒(スティック)、マレット(先きに球のついた木の棒)などバラエティにとんでいます。「たたき方」(演奏方法)も、たたく場所で音色をかえたり、こすったりして音を出したり、いろいろです。

太鼓は、音を出す〈楽器〉のなかで最も古く、原初的であると言われていています。太鼓の音が、人間の心に直接響き、訴えかける何かを持っているからではないでしょう。「ポンドだいこ」では、心に響く音を子どもたち自らが形にあらわしながら、音を作り出す楽しさを体験する、音と出会うプログラムです。

子どもが乳幼児期に発する「ポンポン」「トントン」などの〈音〉は、身の回りの親や大人によって擬音語として使われ始めました。赤ちゃんの発している〈音〉やしゃべっている言葉をよく聞いていると、〈音〉と言葉が同次元で発せられるため、〈音〉の映像が見えてくるようで新鮮に感じられることがあります。〈音〉は日常のなかで知らないうちに、そのものを表す記号のようになっているのかもしれませんが。

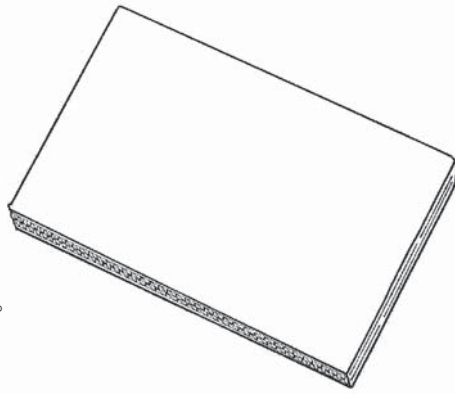
音楽ではなく、耳をすまして、さまざまなものから

生じる音を聞き取ることからはじめてみます。紙、木、陶器、金属、竹など、身の回りにあるありふれたものをいろいろなものでたたいて音を出してみます。いろいろな素材の「音調べ」を行い、ものの固有の音を発見し、探り出し、効果的に響かせて〈音〉を楽しんでみます。

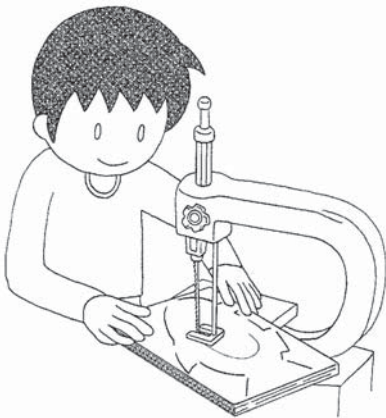
「ポンドだいこ」や、ほかのいろいろな音の出る“もの”を探して、「音当てクイズ」をするのも楽しいと思います。身近な音の出るものを使って、「音の冒険旅行」をしてみてください。

□作り方□

①段ボール板に太鼓の形となる絵を描きます。幕面になる部分の形はできるだけ円、楕円に近い形にします。



②幕面を切り抜くためドリルで穴をあけ段ボールカッターまたは電動糸のこでくりぬきます。

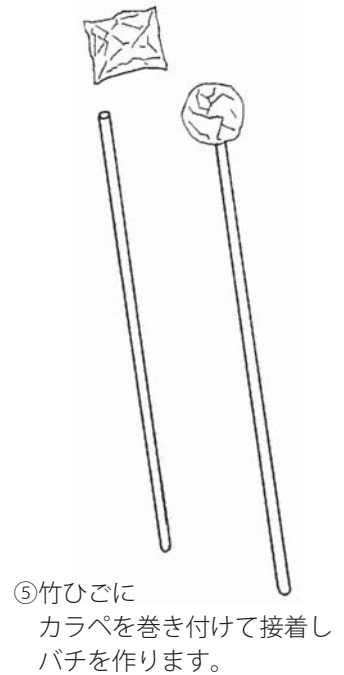


□「ポンドだいこ」作りで使う道具□

- ①電動糸のこ（または段ボールカッター）
- ②電動ドリル（または手回しドリル）
- ③木工用ボンドまたはのり
- ④はさみ
- ⑤顔料系水性マーカー

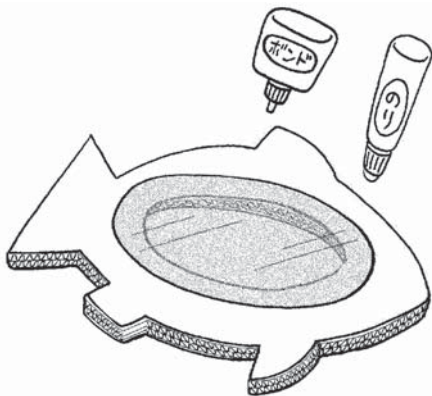
□「マペット」の材料□

- ①段ボール（25×30cmくらい、2～3層）
- ②トレーシングペーパー（厚め）
- ③薄い色紙（カラペ）
- ④竹ひご（3mmφ×20cm）

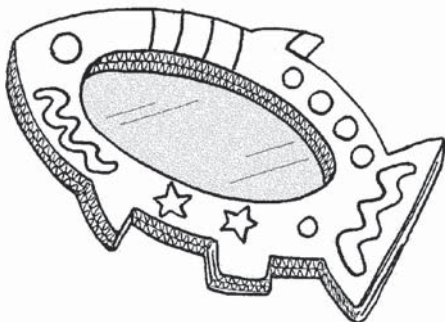


⑤竹ひごにカラペを巻き付けて接着しバチを作ります。

③穴の大きさよりも2cmくらい大きくなるように（のりしろになります）トレーシングペーパーを切り木工用ボンドまたはのりで段ボールに接着します。



④トレーシングペーパーをはった面の反対側の面に顔料系水性マーカーで模様を描きます。



イラスト：横須賀ヨシユキ

※太鼓の“幕”は、“幕”の面積や形によって音の高低や音色が異なります。基本的には大きい方が低く、小さい方が高くなります。また、紙の厚さや種類によっても音が変わります。いろいろな素材を試してみてください。
 ※胴体の素材には、ベニヤ板なども利用できます。
 ※太鼓の“幕”には、強度のある和紙などを使っても良いでしょう。